

第38回 地域医療現地研究会

大空と大地の中で育もう 地域包括医療・ケアの未来

～住み慣れた地域で完結する地域医療を目指して～

開催日

令和6年

6月21日^金・22日^土

会場

ホテル日航ノースランド帯広

研究施設

足寄町国民健康保険病院
高齢者等複合施設「むすびれっじ」

主催

公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会
公益社団法人 国民健康保険中央会
北海道国民健康保険診療施設連絡協議会
北海道国民健康保険団体連合会

放牧牧場

松山千春さんと
北海道遺産
螺湾(らわん)ブキ

足寄町国民健康保険病院

足寄町は北海道十勝管内の東北部に位置し、面積は1408.04km²と町村では日本一広い、自然豊かな町です。

当院は、昭和22年9月に村立病院として開設され、昭和25年4月町制施行により町立病院となりました。昭和34年4月に足寄町国民健康保険病院に改称され、一時は105床の病床を有していましたが、平成13年新病院に改築されてから60床の一般病床として運営しております。人口が約6,300人程度で、高齢化率は40%を超えており24時間救急告示病院としての機能の他、慢性期、回復期、さらには在宅医療や予防医学など、幅広く地域医療に対応しております。

当院の理念は、「いたわりとおもいやりの心をもち、やすらぎに満ちたぬくもりのある病院作りを目指す」としており、地域住民から信頼される病院作りに努めております。



当院は、最先端の医療を施すことはできませんが、かかりつけ医、そしてプライマリ・ケア医として、救急を含めた1.5次医療を受け入れるとともに、2次救急のある基幹病院からの慢性期、回復期に住み慣れた地域で安心して過ごせる地域完結型の地域医療を担っております。また、将来の高齢者医療のモデルとなるべく、多くの医学生研修医を受け入れ、これからの地域医療の在り方を学ぶことのできる教育医療機関としても取り組んでおります。



平成26年に運用開始となった高齢者等複合施設は、地域交流施設、小規模多機能を一体化した地域支え合いセンターにグループホームが併設され、さらに足寄町オリジナルの

「生活支援長屋」も合わせた複合施設で、「生活支援長屋」は支援が必要な時に介護保険の有無に関係なく、一時的に滞在することが可能な施設であり、買い物や通院が困難な人が冬期間だけ生活する、急な用事で家族が介護できない時、病院からの退院後の生活に不安が残る人が日常生活に慣れるまで生活する、といった様々なニーズに対応できる施設として利用されております。足寄町の掲げる医療と介護、保健・福祉の連携の体制に大きな役割を担っている施設です。



高齢者等複合施設「むすびれっじ」